

平成31年2月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成31年2月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

八戸地方に春を呼ぶ、豊年祈願の郷土芸能「八戸えんぶり」が2月17日（日）～2月20日（水）の日程で開催されます。

えんぶりの一番の見どころは、太夫（たゆう）と呼ばれる舞手が、馬の頭をかたどった華やかな鳥帽子（えぼし）を被り、頭を大きく振る独特の舞です。その舞は、稲作の一連の動作である、種まきや田植えなどの動作を表現したものです。

太夫の舞の合間には、子どもたちによる可愛らしい祝福芸も披露されます。

みなさま、ぜひ「八戸えんぶり」を見に、八戸へお越しください。

### ■八戸えんぶり【開催期間：2月17日（日）～2月20日（水）】

※詳細は、こちらのホームページをご覧ください。

<https://hachinohe-kanko.com/10stories/hachinohe-enburi>

### ■八戸えんぶり鑑賞後は、あたたかいブイヤベースをお楽しみください。

八戸ブイヤベースフェスタ【開催期間：2月1日（金）～3月31日（日）】

※詳細は、こちらのホームページをご覧ください。

<http://www.hhrp.jp/hbb>

### ◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 /FAX (03) 3239-6723

E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

# 八戸 2月号 レポート

平成31年1月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

記事	概要
(1)	八戸ブックセンター開館2年 来館者30万人突破
(2)	八戸「新大橋」架け替え工事 4月1日から7年間通行止め
(3)	八戸消防本部国際消防救助隊 解体中の旧柏崎小学校で災害訓練
(4)	八戸市民病院緩和ケア病棟起工式 ～来年3月末 供用開始へ～
(5)	青森県が二次交通情報サイト「アオアシ」開設 ～観光客の足“アシスト”～

## 【産業】

記事	概要
(6)	「ふるさと祭り東京」どんぶり選手権 俵屋の「銀サバトロづけ丼」が5位入賞
(7)	「VISITはちのへ」ヤフー、八食センターと連携協定締結
(8)	八戸ワイン製造の澤内醸造 新作ワイン「Wa(わ)」発売
(9)	2016年「製造品出荷額等」北東北で八戸市が1位
(10)	「八戸フイヤーフェスタ2019」開幕
(11)	八食ファーマーズ倶楽部 地域活性化へ新グルメ「八食サンド」開発

## 【地域】

記事	概要
(12)	「肢体不自由児・者の美術展」書道部門 八戸第一養護学校の4人が最高賞
(13)	シルバークリニック ベトナムの小学校に浄水器寄贈
(14)	「全国高校ビジネスアイデア甲子園」澤口さん（八戸商業）が準グランプリ
(15)	八戸歴史研究会会長・三浦忠司さん「城下町南部八戸の歴史」刊行
(16)	是川中が「文部科学大臣優秀教職員表彰」受賞

## 【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	NHK「いだてん」主演の中村勘九郎さん 八戸でトークショー開催
(18)	J3ヴァンラーレ八戸 3月10日デビュー戦決定
(19)	八学光星 3年ぶり10度目のセンバツ出場へ
(20)	「ケベック国際ピーウィーホッケートーナメント」河村君（湊小6年）日本選抜で出場
(21)	女性漫画家マツリカさん（八戸出身 六戸在住） 念願のプロデビュー

## 【行政】

記事	概要
(1)	<p><b>八戸ブックセンター開館2年 来館者30万人突破</b></p> <p>八戸ブックセンターがオープンしてから2年余りが経過した。来館者数は開館後の半年間、毎月1万人を超えていたが、2017年9月以降は1万人割れの状況となった。北側の隣接地にマチニワがオープンしてからは再び増加し、2018年7～11月は1万人台で推移。1月7日に来館者数の累計が30万人に達した。1日平均来館者数は2018年12月末時点で461人。開館当初に想定していた300人を上回り、集客面では一定の成果が出ている。しかし、リピーターが増えた一方、若い世代の利用が少ないという課題もあり、市は今後、新たな企画やイベントを展開しながら、幅広い世代の新規利用者を掘り起こす考えである。</p>
(2)	<p><b>八戸「新大橋」架け替え工事 4月1日から7年間通行止め</b></p> <p>八戸市の馬淵川に架かる市道沼館小田線の「新大橋」の架け替え工事で、市は4月1日午前0時から橋を全面通行止めにするを明らかにした。通行止めの区間は、八戸ガス前交差点から八太郎交差点までの約600メートル。2019年度は既設橋の上部を撤去し、橋脚の一部の工事にも着手する予定。迂回路となる橋は、沼館大橋、八太郎大橋、馬淵大橋の3本が想定される。供用開始は2025年度末の予定で、7年間は通行できない。</p>
(3)	<p><b>八戸消防本部国際消防救助隊 解体中の旧柏崎小学校で災害訓練</b></p> <p>八戸消防本部の国際消防救助隊は1月17日、解体中の旧八戸市立柏崎小で、訓練を実施した。国際消防救助隊は、海外で大規模の災害が発生し、被災国から要請があった場合に、現地で救助活動を行う。全国で77消防本部599人の隊員が登録。八戸消防本部は青森県内で唯一、同隊を登録しており、毎年1回訓練を行っている。訓練は、A国でマグニチュード7.6の地震が発生、48時間後に現地に到着し救助を行うという想定で実施。登録隊員と予備隊員25人が、同校を地震で倒壊した建物などに見立て、さまざまな想定で訓練に取り組み、救助要請に備えた。</p>
(4)	<p><b>八戸市民病院緩和ケア病棟起工式 ～来年3月末 供用開始へ～</b></p> <p>八戸市が整備を進める市立市民病院緩和ケア病棟の起工式が1月23日、同病院敷地内の建設予定地で行われた。緩和ケア病棟は、がん患者の身体的な苦痛や、精神的なつらさを和らげるためのケアを目的とした施設。地上3階建てで、延べ床面積は6608平方メートル。最上階に設けられる20床の病床スペースは全て個室で、患者がベッドに寝たまま中庭に出られる部屋と、サンルームを設けた部屋の2種類を整備する。市は地域のがん医療の拠点として、2020年3月末の供用開始を目指す。</p>
(5)	<p><b>青森県が二次交通情報サイト「アオアシ」開設 ～観光客の足“アシスト”～</b></p> <p>青森県内を訪れた観光客の利便性向上へ向け、県は二次交通（飛行機や新幹線で到着後、目的地へ向かう交通手段）情報サイト「アオアシ」を開設した。サイトでは、交通機関ごとに事業者や既存プランを紹介。八戸市内をタクシーで回る「八戸まちタク」「あさぐる」、青い森鉄道が1日乗り降り自由になる「ワンデーパス」などが掲載されている。また、開設に合わせてタクシーを活用した「おすすめプラン」を設定。冬季は「三陸復興国立公園 蕪島・種差海岸と八食センターでお買い物＆ポータルミュージアムはっちコース」など7つがあり、季節ごとに内容を更新する予定。</p>

【産業】

記事	概要
(6)	<p><b>「ふるさと祭り東京」どんぶり選手権 俵屋の「銀サバトロづけ丼」が5位入賞</b></p> <p>全国のご当地グルメなどが東京ドームで一堂に会する「ふるさと祭り東京」が1月20日閉幕し、丼メニューの頂点を決める「全国ご当地どんぶり選手権」の結果が発表された。本年度は10回目の記念大会として、八戸銀サバトロづけ丼を含む三つの殿堂入り丼（殿堂丼）を加えた計18種類が出場。過去2度のグランプリを獲得している日本の味俵屋（八戸市）の八戸銀サバトロづけ丼は5位入賞を果たした。俵屋の沢上弘代表は次回に向け「サバにもう少しこだわり、お茶漬けのメニューも考えてみたい」と意欲を示した。グランプリは島根県の「のどぐる丼」が獲得した。</p>
(7)	<p><b>「VISITはちのへ」ヤフー、八食センターと連携協定締結</b></p> <p>今春の運営開始を目指す八戸圏域版DMO（観光地域づくり推進法人）「VISIT（ビジット）はちのへ」の設立準備委員会と情報通信大手のヤフー（東京）は1月22日、データ活用に関する連携協定を締結した。協定は両者のデータを活用した新たな課題の発見や分析、データ分析ができる人材育成などを盛り込む。同社が国内のDMOと同種の協定を結ぶのは初めて。また、1月28日には協同組合八食センターと、観光誘客や物産振興に関する連携協定を締結した。</p>
(8)	<p><b>八戸ワイン製造の澤内醸造 新作ワイン「Wa（わ）」発売</b></p> <p>八戸市南郷産のブドウを使用した「八戸ワイン」製造を手掛ける澤内醸造は1月26日から、オリジナルブランド「Wa（わ）」の新作スパークリング2種類（白、ロゼ）を計1300本限定で販売している。今シーズンはブドウの木の成長に伴い、収穫量は前期比1.5倍の約3トンに増加。糖度はやや下がったものの、木材チップを使った貯蔵や、アルコール度数を12度まで引き上げることで、すっきりとした味わいに甘味を残す工夫を凝らしている。価格は白、ロゼとも1本3024円（税込み）。市内のユニバース、カネイリミュージアムショップなどで販売している。</p>
(9)	<p><b>2016年「製造品出荷額等」北東北で八戸市が1位</b></p> <p>八戸市の2016年の「製造品出荷額等」は総額5381億円に上り、北東北3県の市町村別順位で2年連続でトップになった。前年実績を254億円上回り、平成期では過去5番目に高い。業種別では、水産加工品や畜産加工品など食料品製造業が1040億2200万円で最高。パルプ・紙・紙加工品製造業が854億2600万円、飲料・タバコ・飼料製造業が831億4600万円と続いた。多様な業種が集積する優位性もあって出荷額は堅調に推移しており、北東北の経済をリードする都市という存在感を、内外に印象付けている。</p>
(10)	<p><b>「八戸ブイヤベースフェスタ2019」開幕</b></p> <p>「八戸ブイヤベースフェスタ2019」が2月1日～3月31日の日程で開かれる。八戸ハマリレーションプロジェクトの主催で、地元産の魚介類を4種類以上使うのが決まり。また、「八戸流は二度おいしい！」を掲げ、リゾットやコロッケなどスープを用いた締め料理を提供する。8回目となる今回は八戸市内13店、三沢市内1店が参加し、地元の新鮮な魚介類を使った個性豊かなブイヤベースを提供。1月25日、参加店のシェフが八戸プラザホテルで記者会見し「8年目でバージョンアップした味を楽しんでほしい」と来店を呼び掛けた。</p>
(11)	<p><b>八食ファーマーズ倶楽部 地域活性化へ新グルメ「八食サンド」開発</b></p> <p>八食センターと青森県南地方の農業生産者が立ち上げた「八食ファーマーズ倶楽部」は、オリジナル商品「八食（8色）サンド」の開発を中心とした地域振興プロジェクトを計画している。メンバーが育てたこだわりの野菜や果物などをパンに挟み、特色豊かな新グルメとして提案。八食内に店舗を構えるパン店「マルシャン」が製造する。サンドの具材は野菜や果物をメインとし、八つの食材の使用を想定。八食らしく、イカやサバといった海鮮も使う。また、ヴァンラーレ八戸の選手がプロデュースする企画商品も検討。ダイハツスタジアムで「目指せ！J2応援商品」として売り出し、収益の一部をチームに寄付する。食の拠点である八食や意欲の高い農家が“仕掛け人”となり、地域活性化に向けた活動の輪が広がっている。</p>

## 【地域】

記事	概要
(12)	<p><b>「肢体不自由児・者の美術展」書道部門 八戸第一養護学校の4人が最高賞</b></p> <p>社会福祉法人日本肢体不自由児協会などが主催する第37回「肢体不自由児・者の美術展」で、青森県立八戸第一養護学校に通う中学部と高等部の生徒4人が最高賞の特賞に輝いた。書道には、全国から303点の作品が寄せられ、題材は自由。同校の生徒は毎年、同展に出品しているが、一度に4人も特賞に入るのは過去最多。</p>
(13)	<p><b>シルバークリニック ベトナムの小学校に浄水器寄贈</b></p> <p>八戸市のシルバークリニック協会が運営するシルバークリニックと有料老人ホーム「シルバー」の職員が昨年12月、ベトナムの小学校に浄水器5台を寄贈した。寄贈先の小学校はベトナム戦争の傷跡が今も残る貧しい農村地帯にあり、時には井戸水をそのまま飲用するなどして病気になる子どももいる。寄贈は、ベトナムに何度か旅行で訪れたことがあるという同クリニックの看護師長が職員に呼び掛けたのがきっかけで、職員で出し合った寄付金15万円で浄水器を購入した。「健康な体でたくさん勉強して、夢に向かってほしい」と、職員の願いが込められた浄水器が、ベトナムの子どもたちを勇気づけている。</p>
(14)	<p><b>「全国高校ビジネスアイデア甲子園」澤口さん（八戸商業）が準グランプリ</b></p> <p>昨年12月に行われた、新しい商品やサービスに関するアイデアを募集する第17回「全国高校ビジネスアイデア甲子園」で、青森県立八戸商業高2年の澤口瑠利さんのアイデアが準グランプリに選ばれた。今回のビジネスアイデア甲子園には、全国113校から7591作品の応募があり、澤口さんの作品を含む6作品が最終審査にノミネート。澤口さんは、粘土に冷却剤と保冷剤の機能を持たせた「変幻自在ひんやり君」を考案。12月15日に大阪商業大で作品のプレゼンテーションを行い、見事、準グランプリを獲得した。</p>
(15)	<p><b>八戸歴史研究会会長・三浦忠司さん「城下町南部八戸の歴史」刊行</b></p> <p>八戸歴史研究会会長の三浦忠司さんが、江戸時代の八戸の中心街についてまとめた「城下町南部八戸の歴史」を、伊吉書院から刊行した。1983年に同書院から出した八戸工業大の高島成侑教授（故人）との共著「南部八戸の城下町」を大幅に加筆、修正。八戸市史や青森県史の編さん過程で収集された史料を活用するなど、新しい研究成果を取り入れた。城下町八戸の誕生や歴史から、住んでいた武士や町人の生活、寺社や祭礼の歴史まで、町の全てを詰め込んだ1冊になっている。317ページ、2376円。</p>
(16)	<p><b>是川中が「文部科学大臣優秀教職員表彰」受賞</b></p> <p>長年にわたって学校教育で顕著な成果を挙げているとして、八戸市立是川中の教職員が「文部科学大臣優秀教職員表彰」を受けた。1月24日、吉田浩之校長と美術を担当する蛭田美奈子教諭が、八戸市庁に伊藤博章教育長を訪ね、喜びの報告をした。同校では、地域住民から木材の提供を受けたことをきっかけに、半世紀にわたり、全校を挙げて木彫を制作。テラコッタ（素焼き）の制作にも取り組んでおり、毎年2月には「木彫テラコッタ展」を開催。2019年度は木彫制作50周年の節目を迎える。ただ、近年は木材の調達が困難になっているのが課題とし、吉田校長は50周年に向けて関係機関に働き掛けていく考えを示した。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	<p><b>NHK「いだてん」主演の中村勘九郎さん 八戸でトークショー開催</b></p> <p>近代オリンピックをテーマにしたNHK大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺～」の放送開始を記念し、主人公・金栗四三役の歌舞伎俳優中村勘九郎さんが1月6日、八戸市の本覚寺を訪れ、陸上選手で日本人女性初の五輪メダリスト人見絹枝さんの墓参りをした。日本人初の五輪マラソン選手の中村さん、金栗を演じる中村さんは、墓前で静かに手を合わせ、日本女子陸上界の先駆者の人見さんが成し遂げた偉業の数々に思いをはせた。また、この日、放送開始を記念したトークショーが八戸市公民館で行われた。中村勘九郎さんと遊女の小梅を演じる女優橋本愛さんが登壇し、約400人の来場者にオリンピックとドラマの魅力を、笑いを交えながら伝えた。</p>
(18)	<p><b>J3 ヴァンラーレ八戸 3月10日デビュー戦決定</b></p> <p>日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）は1月11日、「2019明治安田生命Jリーグ」のJ1、J2、J3全チームのホーム開幕戦の対戦カードを発表した。J3参戦1年目となるヴァンラーレ八戸は3月10日、大阪府のパナソニックスタジアム吹田で、ガンバ大阪U-23を相手にデビュー戦。ホーム開幕戦は第3節の3月24日、八戸市のダイハツスタジアムでY.S.C.C.横浜を迎え撃つ。この他、ヴァンラーレは第2節の3月17日、長野UスタジアムでAC長野パルセイロと対戦する。キックオフ時間や残りの試合日程は後日、発表の予定。</p>
(19)	<p><b>八学光星 3年ぶり10度目のセンバツ出場へ</b></p> <p>第91回選抜高校野球大会（3月23日から12日間・甲子園）の出場32校を決める選考委員会が1月25日、大阪市の毎日新聞大阪本社で開催され、東北地区の一般枠で八学光星と盛岡大付（岩手）が選ばれた。光星は3年ぶり10度目のセンバツで、昨夏に続き2季連続の甲子園出場となる。光星の武岡龍世主将は「最高にうれしい。必ず全国制覇を成し遂げたい」と意気込みを披露した。組み合わせ抽選会は3月15日に行われる。</p>
(20)	<p><b>「ケバック国際ピーウィーホッケートーナメント」 河村君（湊小6年）日本選抜で出場</b></p> <p>八戸市のアイスホッケーチーム「八戸パイレーツジュニア」でプレーするFW河村魁人君(12)＝市立湊小6年＝が、日本選抜チームの一員として、カナダで行われる第60回「ケバック国際ピーウィーホッケートーナメント」に出場する。2005、06年生まれの選手で編成された世界15カ国約120チームが、レベル別に分けられた5部門で頂点を争う。河村君は「世界で通用する実力があるか確かめたい」と自ら大会参加を志願。映像審査に応募し、選抜の18人に選ばれた。2月6日に日本を出発。現地で練習を重ね、15日からの大会に挑む。</p>
(21)	<p><b>女性漫画家マツリカさん（八戸出身 六戸在住） 念願のプロデビュー</b></p> <p>八戸市出身で六戸町在住の女性漫画家マツリカさん(23)＝ペンネーム＝が、月刊少女漫画雑誌「デザート」（講談社）に投稿した読み切り作品「恋のゆくえを探しに」で第44回デザート新人まんが大賞優秀賞を受賞し、プロデビューを果たした。受賞作は「デザート」1月号の別冊付録「Pink」に収録。恋愛に不器用な女子高校生の坂井と鈍感な男子高校生の富田が繰り広げる、爽やかな青春ラブストーリー。自身が育った地域で活動を始め、子どもの頃からの夢をかなえたマツリカさんは「『マツリカと言えばこんな作品の…』と思ってもらえるような、独自の世界観を表現できるような作家になりたい」と意気込む。</p>